

## 札幌市立二条小学校の取組

### 1. 研究のねらい

本は「知識の泉」とも「心の栄養」とも言われる。学校図書館の本を利用して、本を読むのが楽しいと感じる「豊かな心」、必要な情報を活用して調べ学習を促進することができる「生涯にわたる学びの基礎」を育みたいと考え、大人の連携によって子どもの情報活用能力を高めるための読書活動を推進した。

### 2. 取組内容

#### (1) 読書の楽しさを伝える・共有する

本校には始業前8時35分～50分の15分間に朝の活動があるが、金曜日は「読書の広場」となっており、学校中がシーンとして、子どもたち一人一人読書に没頭している。担任も自分の本を読む。1人ではなかなか読書をしないうも学級全体で取り組むので、つられて読んでいる。本の世界の楽しさを感じさせること、選書や導入期の1年生の助けとすることなどのために、年度当初や年度途中、学期末に次のイベントに取り組んだ。



##### ①全校読み聞かせの会

校長・教頭を始め、全担任と読書ボランティアが自分で選んだ本を3回にわたって読む。子どもたちは本の表紙写真と紹介文から3冊の本を選び、毎回自分の選んだ本の読み聞かせ教室に行ってお話を楽しむ。子どもたちの希望を優先し、原則、人数調整を行わないので、集まる人数は数人～100人近くまで様々。人数に合わせて車座にしたり、実物投影機を使ったりなど、工夫を凝らした。終了後は図書館に「全校読み聞かせの会の本」の棚を作り、自分で手にとって読めるようにしている。



##### ②絵本祭り

秋の「読書週間」の取組の一環として行っている。図書館の絵本を全て（貸出中の物は省く。今年は約1,400冊）体育館に広げ、30分間、好きなだけ読むという活動である。全学年、国語科「本はともだち」の2/3コマを使っている。10名の保護者ボランティアが準備・後片付けに協力してくれた。子どもたちは1人で、友達と、先生と、いろいろな形で楽しみながら読書にひたっていた。



##### ③担任や読書ボランティアによる読み聞かせ

「読書の広場」では、基本的に「一人でじっくり読む」ことを大事にしているが、各学年の発達段階に応じて、読み聞かせの時間を設けている。前32回のうち、1年生は9回、2年生は7回、3年生以上は4回、担任だけでなく、読書ボランティアにも読んでもらい、様々な物語の楽しさを味わうことができた。「聞く力」「想像する力」が育つことで、より「物語を楽しむ」ことができるようになる。

#### (2) 読書意欲を喚起する

##### ①図書利用指導

朝の活動「おはよう広場」と学級活動（1/3コマ）を利用して行った。簡単なDVDを作成して各学級で視聴し、その後学級毎に図書館で貸出を行った。進級して心新たな気持ちでいる子どもたちに、本に親しませる機会を設けた。

##### ②貸出状況を称える

貸出数が50冊・100冊を超えた児童には、賞状を作り、担任から学級みんなの前で渡してもらった。

また、秋の全校朝会では、各学年で最も多く図書を借りた児童を紹介し、おすすめの本を披露してもらった。

#### (3) 学びの基礎となる力を育む

学年・情報活用部と連携して、1単元の中ではあるが、資料・情報の収集・利用のためのスキルを身に付けることをねらった学習を行った。

学年	教科	実施月	単元	情報活用にかかわる学習内容
1年	国語	9月	ほんはともだち	<図書館を利用する> 本の並び方を知り、選書の幅を広げる
2年	国語	9月	読んで考えたことを書こう	<課題に応じた情報の利用>

			どうぶつ園のじゅうい	教材文から、科学読み物を探して読む。 ラベルによって探せることを知る。
3年	国語	2月	ほうこく書を書こう 本で調べて、ほうこくしよう	<情報・メディアの利用法を知る> 索引・目次・背表紙から探したい言葉や 事柄を検索する方法を学ぶ。(百科事典)
4年	国語 総合	8月	調べて発表しよう だれもがかかわり合えるよ うに 福祉	<学習テーマを選択する> 学習テーマの選択 教材文から、自分の追及したいテーマを 選択する方法を学ぶ。
5年	国語	11月	理由づけを明確にして説明 しよう グラフや表を引用して書こう	<目的に応じた情報の利用と留意点> 目的に合った情報を選択し、その際の著 作権などについて学ぶ。
6年	国語 総合	6月	町のよさを伝えるパンフレ ットを作ろう ようこそ、わたしたちの町へ 札幌の魅力再発見!	<テーマの選択と情報の活用の仕方> 必要な情報を選択することを学ぶ。著作 権や情報モラルの大切さを知る。

### 3. 成果と課題

#### (1) 成果

- 週に1回の「読書の広場」は、「一人読み」を基本に据えながら、担任とボランティアの連携により、物語の世界のおもしろさ、読書の楽しさ、選書のきっかけなどを子どもたちに与えるものとなった。
- 図書館前に「キラリ〜ン（図書委員会公募で決めたキリンのキャラクター）」を掲示。貸出数1000冊ごとに首が1つ伸びる仕組みで、担任・ボランティアの適切な関わりが、貸出数の伸びにも反映されている。
- 「読書週間」の最後に「ぼくのわたしのこの1冊」という感想カード（1、2年生は感想絵）を書き、全員分を掲示した。個人の読書が全体に広がり、個人を励まし、また次の読書活動に向かうきっかけになっている。
- 計画的に「図書利用」「学び方」のスキルを身に付ける学習を組ん  
ことで、「学びの基礎」の力を子どもが身に付ける道筋を見通すこ  
とができるようになった。
- 具体的な活動や学習を通して、担任がボランティアの方と相談する  
ことができた。担任が図書館に来て、学習に必要な図書を探す機会  
が増え、子どもたちの調べ学習や並行・発展読書に活用されている。



4月



12月



1年  
図鑑でしごと・  
つくりを読み取って



2年  
説明の仕方を  
他の本で確認して



#### (2) 課題

- 子どもたちは本来、お話を聞くこと、本を読むことが大好きである。そのため、担任もボランティアもその気持ちに応えようと、書店や書評欄などを利用して選書を工夫する。選んだ本はリストにしたり、お便りにのせたりして共有しているが、研修会を開くなどして、更に研鑽を積んでいきたいと考える。